

第4単元 たし算とひき算の筆算(A)

問題番号	配点	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	60 (各5)	① 700    ② 1300 ③ 600    ④ 300 ⑤ 687    ⑥ 901 ⑦ 419    ⑧ 388 ⑨ 154    ⑩ 399 ⑪ 9819   ⑫ 1921	知技 繰り上がりのある3位数の加法計算や、繰り下がりのある3位数の減法計算、及び何百±何百の計算が正確にできる。	位がそろっているか、一の位から順に計算し、繰り上がりや繰り下がりに気をつけているかなど、計算の仕方を丁寧に指導する。
②	20 (各5)	① $\begin{array}{r} 564 \\ + 43 \\ \hline 607 \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 97 \\ + 203 \\ \hline 300 \end{array}$ ③ $\begin{array}{r} 206 \\ - 98 \\ \hline 108 \end{array}$ ④ $\begin{array}{r} 608 \\ - 499 \\ \hline 109 \end{array}$	知技 筆算形式で3位数の加減計算ができる。	筆算形式の計算の手順や繰り上がり、繰り下がりについて、反復して理解を図るようにする。
③	式 答 (各5)	475 + 35 = 510 (475 + 35) 510こ	知技 場面に応じた立式ができる、問題を解決することができる。	問題場面がとらえられない児童には、テープ図などを用いて理解できるようにする。
④	式 答 (各5)	603 - 597 = 6 (603 - 597) 右のたなが、6さつ多い。		

第4単元 たし算とひき算の筆算(B)

問題番号	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	① $\begin{array}{r} 584 \\ + 342 \\ \hline 926 \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 627 \\ - 25 \\ \hline 602 \end{array}$ 《気をつけること》 ① (略) 繰り上がりに気をつけることが書いてあれば可。 ② (略) 位をそろえて計算することが書いてあれば可。	思判表 十進位取り記数法の原理に基づいて、筆算の仕組みについて説明している。	位取り表などを活用し、10のまとまりができると次の位に繰り上がることや、位をそろえて計算することについて、十進位取り記数法の原理に基づいて、具体的な操作を通して理解できるようにする。
②	ななみ…2000、7000 たかし…2100、7200	思判表 加法の場合の答えの見当のつけ方を考え、説明している。	計算をする際、答えが大体どれぐらいの数になりそうか、数を簡単に丸めて見当をつけるようにする。そして、計算した答えと見当をつけた値を比較させるようにする。

▶ 思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	4問以上	3～2問	1～0問

▶ 主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容 記述内容	3項目とも意欲的であり、感想とさらに学習したいことの2つの観点で書かれている。	3項目ともおおむね意欲的であり、感想とさらに学習したいことのどちらかの観点で書かれている。	どの項目も消極的であり、感想やさらに学習したいことが書かれていない。